
ホタルのニュースレター

日本ホタルの会 2018/9 第 79 号

『ゲンジボタルの和名について』

螢文化誌研究家 後藤 好正

日本を代表するホタルであるゲンジボタルの和名の由来については諸説あり、いまだに定説はありません。私はこの問題を再度検討し、『ゲンジボタル和名考～江戸文学の視点から～』という報文にまとめました。本稿では、ゲンジボタルの和名の由来について、私の考えを紹介したいと思います。

まずは顕示説と螢合戦説を見てみます。ホタルの光が闇の中でもはっきりと見える「顕示」という意味から生まれたとするのが顕示説です。しかし、これはゲンジボタルというよりはホタルの特徴であり、語源とするには無理があると思います。また、ゲンジボタルの集団群飛を螢合戦と呼ぶことから、これを源平合戦に結びつけ、ゲンジボタル・ヘイケボタルの名が生まれたとするのが螢合戦説です。これも、各地の伝説を見ると、螢合戦が必ずしも源平合戦に結びつけられているわけではなく、戦国時代の合戦とされる話も少なくないことから、やはり説得力に欠けるように思います。

次に一番良く知られている民俗学者柳田国男の説を検証します。この説は、ホタルの光に一種独特の力を感じ、神秘的な力を持っていると考えられていた山伏と結び付け、山伏→(山伏の異称である)験師→ゲンジのホタルとなったというものです。これに対しホタル研究家の神田左京は詳細に反論していますが、中でも山伏を「験者(ゲンザ・ゲンジャ)」あるいは「修験者」とは呼んでも験師という用例が見当たらないということは、この説の大きな欠点です。

では、柳田を批判した神田はどのように述べているのでしょうか。神田は、〈かぶり火も螢もひかる源氏哉〉〈尻は猶源氏といはん螢哉〉の俳諧発句を、紫式部の『源氏物語』の主人公光源氏に掛けた句とし、『源氏物語』に由来すると考えました。さらに、宇治の戦いで敗死した平安時代末期の武将源頼政が、ホタルと化して平家方と合戦を行っているという宇治川の伝説も、源氏とホタルが結びついた暗示になるとしています。神田の説に対して「語呂あわせの感がつよい」「いかにも安直である」といった批判もありますが、そのように切り捨てていいのでしょうか。

私は江戸時代のホタルを詠んだ俳諧発句や川柳・雑俳を調べていて、『源氏物語』や源頼政を踏まえた句が意外に多いことに気がつきました。そこ

で、江戸の文学で当時の人々がホタルと源氏を結びつけた作品について、さらに調べてみました。その結果、『源氏物語』では俳諧発句が7句、雑俳・川柳が10句、狂歌が5首、他に御伽草子の『猿源氏草紙』が見つかりました。御伽草子は室町時代の文学ですが、『猿源氏草紙』は江戸時代に他の作品と一緒に『御伽文庫』として出版されています。次に源頼政の伝説に関わるものでは、俳諧発句が6句、雑俳・川柳が8句、狂歌が6首、その他に読本『宇治奇聞』・人形浄瑠璃『頼政追善芝』がありました。また、頼政の先祖で酒吞童子や土蜘蛛退治の説話で知られる源頼光になぞらえた、異類合戦物（虫合戦物）の浮世草子や咄本もありました。

ちなみに報文発表後に見つけた俳諧発句と川柳・雑俳を少し下記に挙げておきます。

源氏物語では

（俳諧発句） もろともに光る源氏の螢かな

嘉 時（伊勢俳諧大発句帳抜書）

螢見や光源氏の物がたり

正 信（詞林金玉集）

瞿麦に昼の螢のしのびけり

交 風（松のそなた）

（川柳・雑俳） 箱入を見るも螢の引合せ

（東月評宝暦 11 麟2）

螢影几帳のもとよ光君

金 羅（四季発句帳）

源頼政の伝説では

（俳諧発句） 頼政がなみだの魂か飛はたる

むね雄（懸額発句集）

（川柳・雑俳） 頼政のとぶらひ軍飛ブ螢

鯉 塊（初桜）

螢火もあやめの前に身をこがし

石 蘿（狂句むめ柳二編）

あやめに螢より政が二世の縁

岸 蝶（柳風興句集初編）

このように、江戸時代前期から末期まで、さまざまな分野の文学でホタルを源氏と結びつけた作品が生み出されていました。これらの作品は作者だけでなく読み手側の理解も必要です。特に庶民の文学である俳諧や川柳・雑俳に多く見られると言うことは、庶民にもそれだけのリテラシーが備わっていたといえます。こうした作品から江戸時代の庶民にホタルと源氏を結びつけたイメージが形成されていったことでしょう。近代になって *Luciola curciata* に和名を付ける時に、こうした江戸文学のホタルに対する見方を受けて“源氏ボタル”の発想が生まれたと考えるのはあながち無理なことではないと思います。

なお、詳細な論考ならびに引用した文献は、拙文『ゲンジボタル和名考～江戸文学の視点から～』をお読み下さい（下関市立豊田ホタルの里ミュージアムのHPから見るができます）。また、江戸時代にすでにゲンジボタル・ヘイケボタルという呼称があったと主張する人もいますが、私

は明治時代に研究者によって付けられたと考えています。それについても前記報文にまとめています。

文 献

後藤好正 (2017) ゲンジボタル和名考～江戸文学の視点から～. 豊田ホタルの里ミュージアム研究報告書, (9):67-80.

初歩から学ぶホタル入門 (7)

スジグロボタル

日本ホタルの会副会長 鈴木 浩文

ホタルに関する基礎知識を正確に、かつ平易に解説しています。
ホタル観察会などにて、ハンドブックとしてご活用ください。

はじめに

スジグロボタルは、当初ベニボタル科の種として扱われてきました。そのため、スジグロベニボタルという和名も継続して使われています。ホタルと認識されていなかった通り、成虫は昼行性のため発光を確認できませんが、やはりホタルですので、夜間、幼虫が発光しているところを観察できます。また、幼虫は、完全ではないですが、水生の生活をしているので、ゲンジボタルが生息しているところで確認されることもあります。ゲンジボタルの生息環境を確認する時に気をつけて探してみましょう。

形態

スジグロボタル(*Pristolycus sagulatus*)は1883年にゴーラム(Gorham)によってベニボタル科の一員として記載されました。これは、成虫の前胸の後角が外側に反り返るというベニボタルの特徴を持っていることによる訳ですが、その後、ホタル科との類似性を示すいくつかの形質を基に、ホタル科に移されています。しかし、腹節に発光器は認められません。体長は雌雄ともに1cmに満たない程度です。鮮やかな紅色の上翅が特徴で、3本の黒色の隆起があります(図1)。

幼虫は扁平でヒメボタルの幼虫に似ています。背板は黒褐色で、前胸背

板の前角と後角および中胸背板と後胸背板の後角には淡褐色の斑紋があります（図2）。腹板は乳白色で、末端には一対の発光器があります。

生息環境と生態

スジグロボタルは千島列島から北海道、本州、九州に分布しています（四国産は別種）。標高は100m以下の低地から1500mの高地（長野県の上高地）でも見られます。生息環境としては、休耕田や丘陵に囲まれた谷戸田、湿地や流水のある森林などです。図3は東京都八王子市滝山の休耕田で、水田跡にはスゲやススキなどが繁茂し乾燥化してきていますが、周縁の水路跡付近は湿地になっており、コケ類も見られます。

成虫は、関東地方では5月下旬から6月上旬にかけて出現します。昼行性で葉の上に止まっているところや、コケの上に産卵しているところ（図4）を見かけます。幼虫は、完全に水中にいるわけではなく、湿地の水際や落ち葉、枝などの上で半水生的に生活しており、カワニナなどの貝類をエサとしています。

近縁種

スジグロボタル上翅の3本の隆起は黒色なのですが、黒色の領域は隆起間の上翅にも及び、その大きさには地域によって変異があり、北海道から本州産のものに比べて、近畿から九州産のものでは黒色部が大きくなります。前胸背板も、より四角くなるといわれており、スジグロボタル近畿亜種(*Pristolycus sagulatus adachii*)とされています。さらに、奄美大島産のものは、上翅の隆起が黄色で、オスの交尾器が異なるとしてスジグロボタル奄美亜種(*Pristolycus sagulatus amami*)とされています。

四国産のものは、上翅の内側から1番目の隆起が短く、前端から1/3程度で消失すること、また、6節目の腹板の形が異なることから、スジグロボタルとは別種のシコクスジグロボタル(*Pristolycus shikokensis*)とされています。

参考文献

- 大場信義・後藤好正(1991)スジグロベニボタルの形態と習性. 横須賀市博研報(自然)39: 1-5.
黒澤良彦・久松定成・佐々治寛之(1985)原色日本甲虫図鑑(III). 保育社

スジグロボタル（ホタル科）まとめ ～鮮やかな紅色のホタル～



図1 スジグロボタルの成虫（上段左）



図2 スジグロボタルの幼虫（上段中央）



図3 スジグロボタルの生息環境：東京都八王子市滝山（上段右）

図4 コケに産卵しているスジグロボタル（下段）

（写真提供：鈴木浩文）



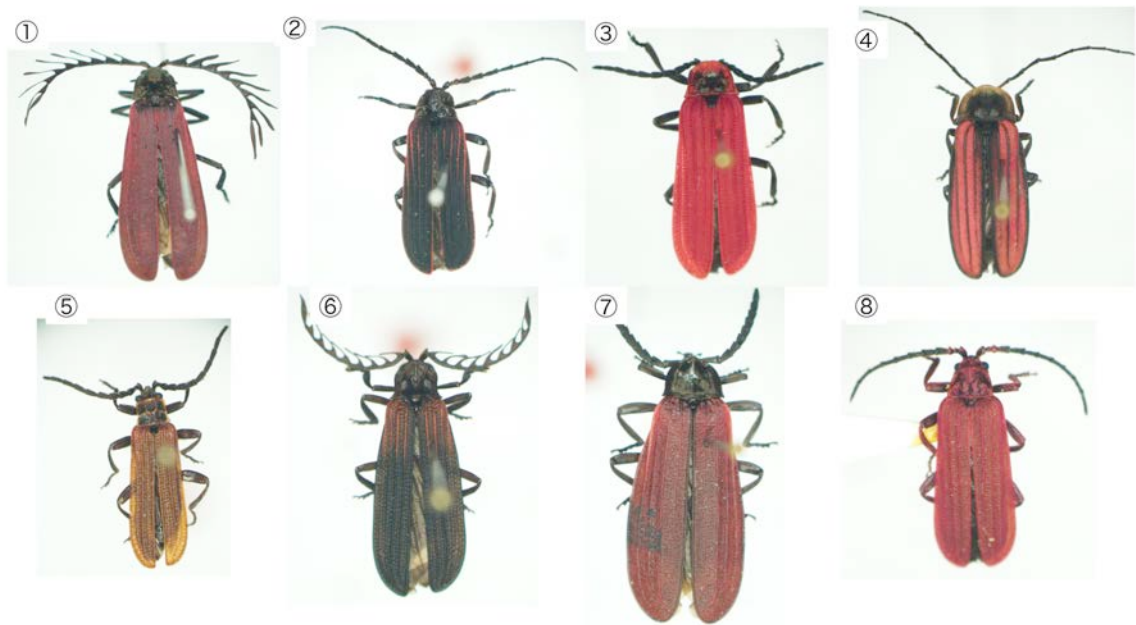
「光らないベニボタル」と「光るベニボタル」

～ベニボタル科とスジグロボタルについて～

日本ホタルの会会員 林 太郎

光る昆虫として有名なゲンジボタルなどが含まれるホタル科には、ベニボタル科という近縁な仲間がいます。ベニボタルは漢字では「紅螢」と書き、その名の通り、真赤な色をした種類がいることからベニボタルと名付けられました（実際には全身真黒、全身黄色といった種類もあります）。それらが含まれるベニボタル科は、現在日本から120種類ほどが記録されています。このベニボタルという昆虫、成虫は発光器を持っておらず、幼虫や卵においても、発光器を持っているという報告はありません。つまり、ベニボタル科はホタル科に近縁ですが、全く光らない昆虫なのです。図1には、ベニボタル科のいくつかの種類の標本を並べてみました。発光器は持っていませんが、特に紅い体色を持つ種類の鮮やかさは、ホタルにはない美しさだと思いませんか？

図1 ベニボタル科の標本



一方で、実は「光るベニボタル」も存在しているということ、皆さんご存知でしょうか？その名は「スジグロボタル」、ベニボタルと名前がついているのに、この昆虫は発光器を持っています。それはなぜでしょうか？

実はこの「スジグロボタル」、ベニボタル科ではなく、ホタル科に属する、れっきとした光るホタルの仲間なのです。ではなぜ「スジグロボタル」という名前がついているのか？それは、この種類が最初に記載された際、「ホタル科」ではなく、「ベニボタル科」の昆虫として扱われたからです。その後の研究により、ホタルの仲間であることが確認されたため、現在はホタル科の昆虫として扱われています。そういった経緯もあり、現在も図鑑によっては「スジグロボタル」という名前で紹介されていますが、ベニボタル科との混同をさけるため、「スジグロボタル」という名前で紹介している図鑑もあります（原色日本甲虫図鑑（Ⅲ））。本稿においても、これ以降は「スジグロボタル」と呼びます。

なぜスジグロボタルは光るホタルの仲間なのに、光らないベニボタルの仲間と間違えられたのでしょうか？先ほどご紹介した図1を再度ご覧ください。実はこの中にスジグロボタルが紛れています。答えは図1右上の④、これがスジグロボタルです。周りのベニボタルの仲間と比較してみてください。背中の「上翅」と呼ばれる部分が真赤で、ベニボタルの仲間とよく似ていますね。さらに、図2のベニボタル科の仲間とスジグロボタル、ゲンジボタルの上翅の部分を拡大した写真をご覧ください。ベニボタルの仲間とスジグロボタルには、矢印で示した「隆条」と呼ばれるスジが上翅に

図2 ペニボタル科とホタル科の上翅

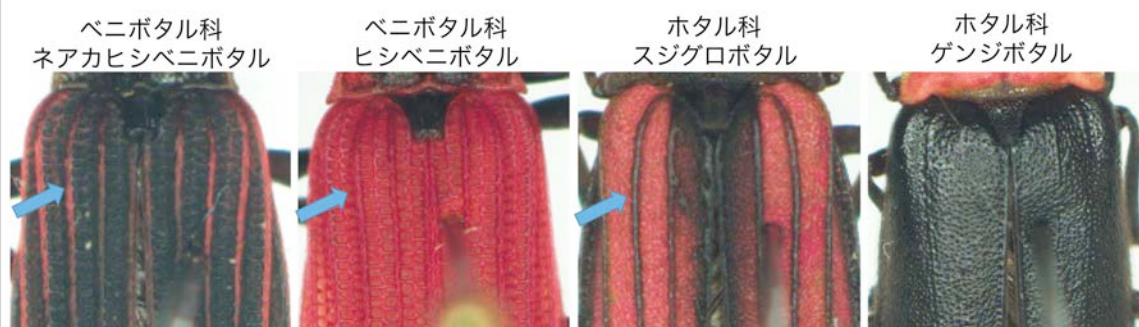


図3 ホタル科とベニボタル科の腹側



あります。一方で、ゲンジボタルの上翅には隆条がありません。ベニボタル科の仲間は基本的に隆条を持つのですが、ホタル科の仲間ではほとんど見られません。さらに、図3にはゲンジボタルとスジグロボタル、ベニボタル科のヒシベニボタルの腹側の写真を載せました。ゲンジボタルのお腹には矢印で示した発光器が存在します。一方でスジグロボタル、ヒシベニボタルのお腹には、発光器はありません。スジグロボタルの成虫の発光器は体内に確かに存在するのですが、外部からは発光器を持たないように見えます（卵や幼虫は他のホタルと同じように光ります）。このように、ベニボタル科の仲間と同じような隆条、黒い筋を持つ、成虫は発光器を持たない（実際には体内に存在しているが、一見持っていないように見える）などの特徴から、スジグロボタルは当初ベニボタルの仲間と間違われたのです。

参考文献

黒澤良彦・久松定成・佐々治寛之(1985)原色日本甲虫図鑑(III). 保育社

『東京ホタル会議の取り組み』

東京ホタル会議議長 / 日本ホタルの会副会長 鈴木 浩文

ゲンジボタルについては、地域における発光間隔の違いから、関東と関西での生態型が指摘され、さらに遺伝子の違いも認識されはじめ、生物多様性を意識した保全活動が求められています。東京ホタル会議では、これまで東京近郊のゲンジボタルの遺伝子分析を行い、遺伝的な固有性が攪乱されている状況をみてきました。そこで生物多様性を考慮した保全活動として次に示す「ホタル移植の三原則」を唱えてきました。

ホタル移植の三原則

1. 生物地理学上、本来生息していない地域へは移植しない。
2. 数をふやすために他地域から移植するのではなく、本来生息しているホタルを保護していく。
3. 自生のホタルが絶滅し移植を試みる場合は、最も近い水系のホタルを導入する。

この考え方は原則その通りなのですが、現実としては、ホタルがいなくなった場所に導入する場合、どこからホタルを供給してもらえるのかという問題があります。現状では、簡単にホタルを購入することができます。しかも、販売業者からの供給元は関東以外の場合が多いと思いますので、遺伝的な攪乱の状況は広がっていくばかりです。そこで、「ホタルバンク構想」が持ち上がりました。

ホタルバンク構想

遺伝子分析の結果を基に、関東型とされるゲンジボタルを確保し、要望先（東京ホタル会議のメンバーや他の団体）に提供します。要望先との連携により、人為的（飼育した幼虫の放流）にはありますが、ホタルが観察できる環境作りを手伝います（第一段階）。さらに、ホタルが自然発生してくるよう環境を整える技術を確立していきます（第二段階）。そして、公園のような公共の場所でホタルを観賞できる環境づくりと、ホタルを愛でる日本の文化を伝承していくことを目指しています。そのための技術の確立と体制づくりのために、1) 種ボタルの調査と確保、2) ホタル飼育技術の確立と継承、3) 指導者の育成、に取り組んでいます。

ホタル飼育技術講習会

種ボタルを確保できても、採卵・飼育できなければ供給していくことは

できません。しかし、うまく飼育のできるメンバーは少なく、その技術を受け継ぐ若いメンバーも少ないのが問題です。そこで、若いメンバーの獲得と



飼育技術の伝承、生物多様性を意識した環境保全の指導者育成を意図した「ホタル飼育技術講習会 入門コース」を開催しています。今年度からの取り組みですが、会のメンバーの他に、小学校と連帯したホタルの学校の主催者、学園内でホタル飼育を企画している教員、公園管理のボランティアをされている方々が参加しています。図1は、昭島市で開催された第1回目の講習会の様子です。内容としては次の5回コースで、数年行って体制を作っていきます。

第1回) ホタルの生態及びホタル再生活動の実践報告、第2回) 飼育の実際 I: 餌の確保、飼育環境の準備、ホタルの生態、生息地巡見、第3回) 飼育の実際 II: 飼育の開始、ホタル幼虫の分与、第4回) 飼育の実際 III: 飼育の途中経過の発表、第5回) 会員邸に放流。

おわりに

日本人のホタルを愛でる文化は、誰もが認めるところで、ホタルに対する愛着には、非常に強いものがあるように感じます。「ホタルがいなくなってしまったが、どうしても戻ってきて欲しい。ホタルの導入に当たっての原則は理解しているけれども、買ってきてでも取り戻したい。」という気持ちは、社会的な要求として止められないことと感じます。今回の東京ホタル会議の取り組みは、ホタル移植の三原則の妥協案で、遺伝的に認識される6つの型の中であれば、移動は可とすることです。遺伝的な型決めは、今後の技術で更に細くなるのか、ゆるく大枠で捉えるようになるのかは、判断がつきませんが、現状で考えられる生物多様性の認識と社会的な要求のなかで、妥当な取り組みであると考えています。この取り組みをモデルとして、各地のゲンジボタルの遺伝的な型に合わせた保全の活動が広がることを期待しています。

なお、遺伝子分析と型決めの内容については次の資料があります。事務局（日本ホタルの会または東京ホタル会議）までお問い合わせ下さい。

「鈴木浩文，ゲンジボタルに見る遺伝的多様性・固有性と人為的攪乱の状況 -ホタル移植の三原則-，月刊海洋 号外 No.51: 21-30, 2009」

東京ホタル会議 事務局

フェイスブック：<https://www.facebook.com/tokyofireflymeeting/>

メールアドレス：tokyofireflymeeting@gmail.com



談話会参加報告

～「ぼくらの里山・いきものゲーム」の体験～



日本ホテルの会理事 井上 務

今回の談話会は 2018 年 8 月 25 日に多摩平の森ふれあい館にて行われました。講師に後藤洋一氏（当会理事、NPO 樹木・環境ネットワーク協会理事）を迎え「私たちの行動が、里山や生き物にどんな変化や影響をおよぼすのかという、里山管理のカード型シミュレーションゲーム」を体験（写真）しました。

ゲーム方法の詳細は省きますが、談話会当日は里山にゲンジボタルを復活させるには何が必要か？を考えながら大の大人が 4 人童心に戻ってサイコロを転がし、楽しくワイワイやりながらゲームを楽しみました。そして、試行錯誤の末、なんとかゲンジボタルを復活させることができました。なかなか奥が深いゲームでしたので大人も見事にハマってしまいアッと言う間に一時間以上が経過していました。ゲームが終わって「なるほどネ」「ホテル復活に何が必要なのかがよく分かりましたネ」「特に里山を知らない世代の子供たちにやってもらったりしたら有効ですネ」等の感想が寄せられました。

講師の後藤氏によれば既に多くの中学生たちにこのゲームをやっていただき、後日、里山に実際に行き、ゲームで学習したことを現地で体験してもらっているとのことでした。ゲーム世代の子供たちにとって数名で協力しながらサイコロを振るといいうつもとは違う授業は好評で、里山理解が大きく進んでいるとのこと。このゲーム、今回はゲンジボタル復活を目指した内容としましたがキンラン、トウキョウサンショウウオ、フクロウ、タヌキなどの復活を考える設定も可能です。ゲームは販売そして廉価にて貸出もされているそうですので興味のある方は NPO 樹木環境ネットワーク協会に問い合わせみてください。

ところで最近、マイクロプラスチック問題に関連し、使い捨てのプラスチック製ストローを禁止する動きが注目されていますが談話会でゲームに興じた昭和 20 年代生まれの私は麦製のストローを使った経験を持っています。そして、



麦と言えば角川映画「人間の証明」で「母さん、僕のあの（麦わら）帽子は、どうしたでしょうネ」のセリフを思い起こしたりします。ジョー山中が歌ったテーマソングで麦わら帽子は「ストローハット」と歌われています。そもそもストローは麦。里山が元気だったらストローはすぐに麦に代わったかもしれないなあ～などと考え、角川映画の宣伝文句「読んでから見るか、見てから読むか」をもじって「ゲームをしてから里山に行くか？里山に行ってからゲームをするか？」と締めくくって談話会報告とさせていただきます。

INFORMATION

事務局からの お知らせ

5月20日2018年度最初の役員会を開催しました。役員会では、観察会及び談話会の日程、内容を協議しました。観察会は、あきる野市での開催を検討しましたが、結果として、秋の陸生ボタル観察会を行う方向となりました。談話会は、里山体験を実施することに決定しました。談話会の様子は、本号に報告されています。

また、8月25日の談話会后に、秋の陸生ボタル観察会の日程と内容の検討及びシンポジウム日程、テーマについて協議しました。



日本ホタルの会
JAPAN FIREFLIES SOCIETY

〒239-0824

神奈川県横須賀市西浦賀4-11-2-404本多方
(日本ホタルの会事務局)

e-mail: 0723398601@jcom.home.ne.jp

URL: <https://www.nihon-hotaru.com>

Facebook: <https://m.facebook.com/nihonhotaru/>

印刷 青森コロニー印刷

東京都中野区江原町2-6-2

TEL: 03-5996-2761

ホタルのニュースレター（第79号）

2019年 9月25日発行

編集 日本ホタルの会事務局

発行 本多 和彦